

# お客さまの信頼に一層応える 健全な経営を実現するために

経営の健全性確保に関する生保労連の取組み

わたしたちは、お客さまの信頼に一層応える健全な経営を実現するために、経営に対するチェック・提言活動等を通じてコーポレート・ガバナンス（企業統治）の一翼を担っています。

今回、ISO26000(組織の社会的責任に関する国際規格)の発行等にもられるように、CSR（企業の社会的責任）に対する関心が一層高まっている中で、労働組合の立場から、生保産業におけるCSRの実践に向けた役割発揮に努めています。

## 《わたしたちの基本的な考え方》

### 経営の健全性確保とCSRの推進

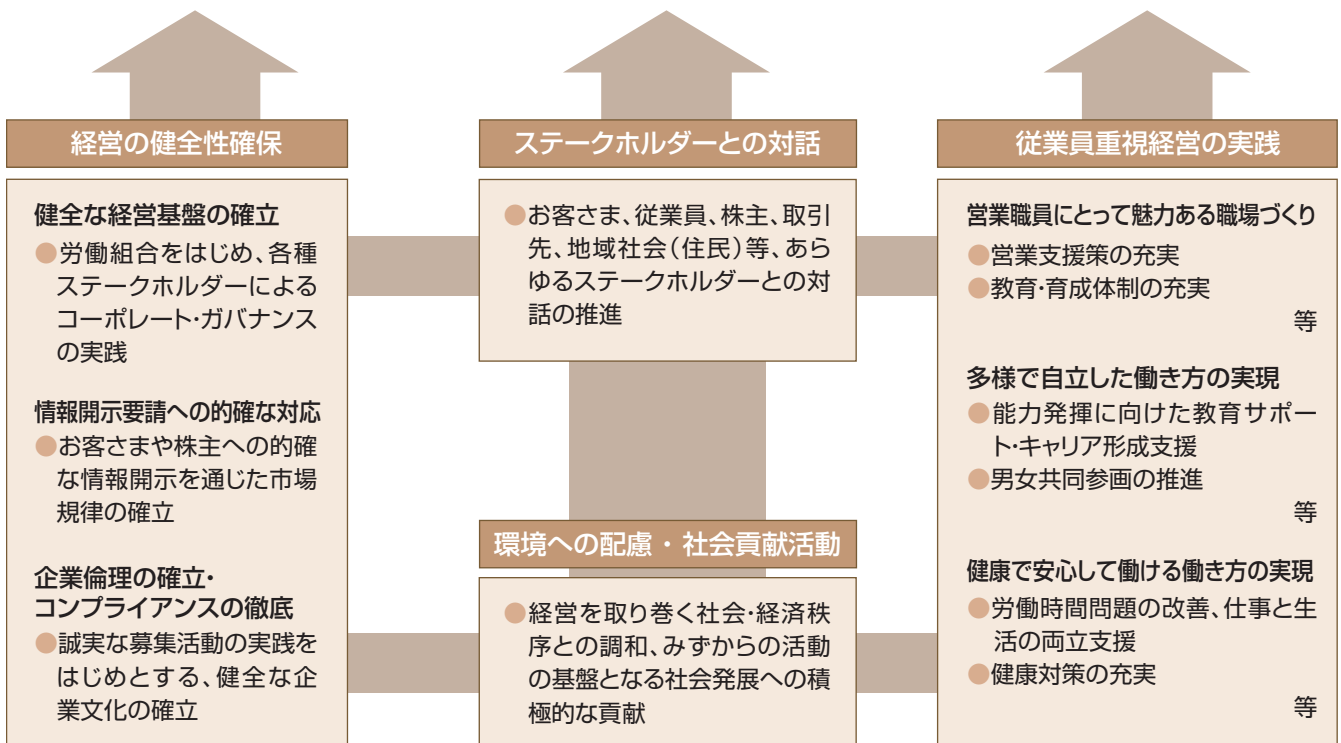
生保労連は、「経営の健全性確保の取組み」を「生保産業の社会的使命の達成」に向けた重要な柱と位置付け、「お客さまの信頼向上に向けた健全な業務運営の徹底」「CSRの徹底」「組合員の生活の安定と雇用の確保」の3つの観点から積極的に取組みを推進しています。

特に、「CSRの徹底」については、労働組合として積極的に参画し、職場レベルでの取組みを推進していく役割が求められています。

生保労連は、労働組合の立場から、CSRの推進に向けて、以下の通り課題を整理しています。

#### ◆CSRの推進に向けた課題

### 生涯生活サポート産業の実現 ～国民生活の向上に向けた誠実な事業活動の実践～

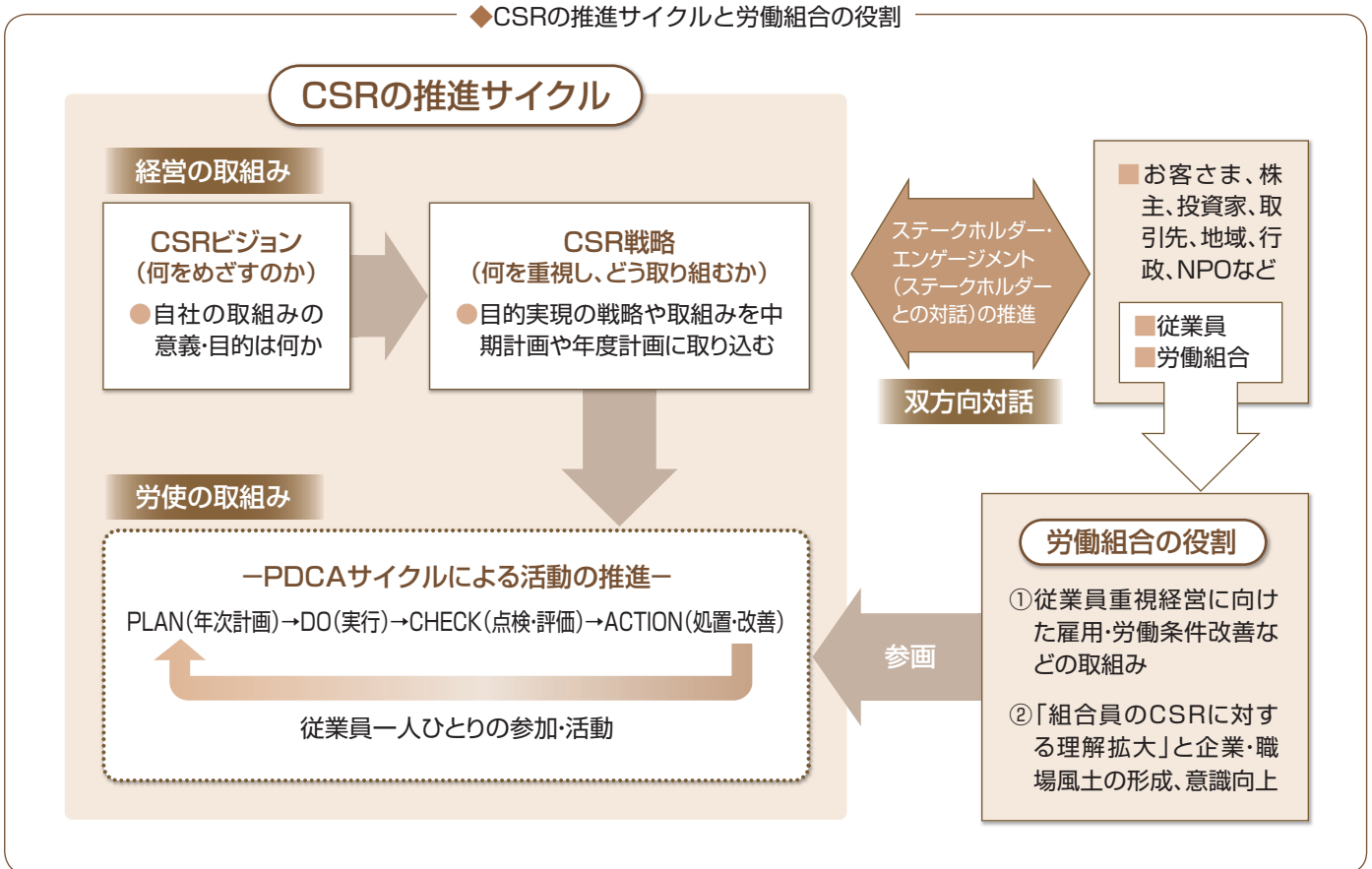


## CSR推進における労働組合の役割・参画

経営の健全性を確保するためには、企業理念を明確にし、経営基盤の確立、事業活動の適正な運営、コンプライアンスの徹底といった課題に取り組んでいく必要があります。そのために、企業とすべてのステークホルダー（利害関係者）との「対話」が基本となりますが、とりわけ現場で働く従業員と労働組合の役割・機能

発揮が極めて重要であると考えます。

今回、ISO26000等の動きを踏まえ、生保労連は、CSR推進における労働組合の役割・参画について、「ステークホルダー・エンゲージメント(\*)」の考え方にに基づき、以下の通り整理しています。



(\*)ステークホルダー・エンゲージメントとは

組織の決定に関する基本情報を提供する目的で、組織と一人以上のステークホルダーとの間に対話の機会を生み出す活動 (ISO26000の定義)

## わたしたちの取組み

### 労働組合の立場から 経営に対するチェック・提言活動に努めています

わたしたちは、直接お客さまとお会いすることで得た「お客さまの声」や「現場で働く組合員の声」をもとに、以下の点について積極的に労使協議を行っています。

- 経営情報の開示を求める中で、経営状況について定期的にチェック・フォローを実施
- 経営方針、経営・業務計画、将来ビジョン等について課題認識の共有化をはかり、積極的に意見反映
- コンプライアンス経営の徹底を要請。労働組合による、従業員のコンプライアンス意識向上の取組み
- 従業員の働き方、職場環境等の改善のため、「ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組み」を展開